

TOPICS

未来を見据えた埼玉大の研究紹介

埼玉工業大学には、学生の未来をはぐくみ、社会に深く貢献する研究活動が充実。ここで磨いた探究心と人間力を追い風にして、夢を叶える人になれ！

INTERVIEW:01

画像認識工学研究室
渡部 大志 教授



PROFILE

2001年より埼玉工業大学に奉職。2017年から自動運転公道実証実験を開始。2019年には、本学産学連携で生まれた高度障がい者向け車両、JOYスティック車をベースに、自動運転バスを開発、各地で実証実験を行っている。



本学発の研究を通じて

少子高齢化・過疎化に悩む

地域の課題解決に貢献したい

大学が取り組む自動運転技術の未来

この研究は、本学創立40周年記念の学内次世代自動車プロジェクトで実験車（プリウス）を入手し自動運転ソフトウェアの開発に着手できたことに始まります。これまでの私自身の研究分野である画像認識の技術や経験が活かせる新たな応用分野であり、特に自動運転技術はAI技術の応用として興味深い分野でした。これまで大学周辺の公道での自動運転に関する実証実験をはじめ、現在、愛知県のプロジェクトで空港島セントレアにおける実証実験や、モリコロパーク（ジブリパーク）での実証実験において、共同事業体のメンバーとし

て企業各社と共に埼玉大も参加予定です。

また、このプロジェクトの自動運転バス実証車両として本学の開発した大型バス車両をベースにした車両を提供する準備を行っています。少子高齢化が進み、高齢者の交通事故が増える中、免許返納後の高齢者の移動手段の担保は大きな社会問題です。一方、過疎で維持困難な公共交通が全国に多数あります。こうした問題の解決策のひとつとして、本学発の自動運転技術研究をぜひ活かしたいと考えています。

2022年、世界初となる
水陸両用バスの自動運転に成功



日本財団提供



2021年大河ドラマの聖地巡礼路線で
全国に先駆け自動運転を実用化